



本の虫ユウの 雑記帳



私の好きな映画編

『ルパン三世 カリオストロの城』

(1979年)

監督：宮崎駿

原作：モンキーパンチ

音楽：大野雄二

声優：山田康夫

増山江威子ほか



text and illustration by you

こんにちには本の虫ユウです。

『ぽけ☆ま』創刊号と言うことで、今日は本のことでなく好きな映画の話をしたいと思います。私の好きな映画は、宮崎駿監督作『ルパン三世 カリオストロの城』です。もともとこの映画は私の父が好きだったんです。何十回も一緒に見ているうちに私も好きになりました。『カリオストロの城』はルパン三世の心地の良いかつよさを詰め込んだ作品だと思います。結構他の作品だとルパン三世のダークな部分がクローズアップされがちですが、この作品を含め宮崎駿監督のルパン三世だとカラッとされていて、知恵と勇気を使い、悪と戦うヒーローの構図が強いんです。

私が『カリオストロの城』の中で1番好きなシーンは、ルパンがクラリス（とらわれの身の姫君）の部屋に1番最初に入る時の、「泥棒は女の子が信じてくれたら空を飛ぶことだって湖の水を飲み干すことだってできるのに」というセリフを言ってから、手品で手から花を出したルパンがクラリスと笑いあうシーンです。ものすごく幸福な気持ちになれるんです。とらわれの身のクラリスがつかの間の、本当に心から笑える瞬間なんだってことが感

じられて良いなあと思うんです。

『カリオストロの城』の1番の魅力は童話みたいなところだと思います。辛い思いをしている女の子がいて、それを助ける役割の男の人、つまり騎士は姫を助け出し、悪を退治するという構図で、その話を全部童話のように美しく描いているところですね。でも、ルパン三世だから一筋縄ではいかない。普通の童話だったら、姫と騎士はいつまでも一緒に幸せに暮らしましたが、となるところを、ルパンはクラリスを助け出したら、カリオストロ公国を去ってしまう。ルパンは自分が裏社会にどっぷりと浸かっているから、潔く身を引いてしまう。そこが宮崎駿監督がこの作品に込めたルパン三世らしさと思いました。

私はふとした時にこの『カリオストロの城』を思い出します。そういう時のために、徳間アニメ絵本を持っています。映画を見ないときはそれを広げて見えています。とてもじっくりと、自分だけの世界に浸れます。

みなさんにも、ふと思い出して無性に見たくなる映画はありますか。